

光の家

LIGHT HOUSE WITH THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設
東京光の家会報

— 136号 —

2006年1月1日発行

また、からだを殺しても、
魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、からだも魂も地獄で滅ぼす力のあるかたを恐れなさい。二羽のすずめは一アサリオンで売られているのではないか。しかもあなたがたの父の許しがなければ、その一羽も地に落ちることはない。

マタイによる福音書

第一〇章 二八節～二九節

謹
賀
新
年



ボニージャックスと一緒に全員集合

あけまして
おめでとう
ございます

皆様には佳き新春をお迎えのことと存じます。

旧年中は当法人事業である視覚障害者福祉のために格段のご指導・鞭撻を賜りまして、まことにありがとうございます。

今、障害者福祉界は、制度の大改革を前にして、各法人ともしっかりとした基本理念とその進む方向の確立を求められています。私どもも微力ではありますが、社会のニーズに応えるべく最善をつくす所存です。何卒本年も旧年に引き続き、ご支援をたまわりたくご懇願申し上げます。末筆ですが、皆様方のご多幸とご平安をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

平成一八年 元旦

社会福祉法人 東京光の家

役・職員一同

巻頭言 ああ、福祉施設

〜再び三たび福祉施設について〜

社会福祉法人東京光の理事長 田中亮治



(1)はじめに

今、私たちの法人では、「障害者自立支援法対策特別委員会」——職員・保護者代表も含め約二〇名程で構成——を編成し、動き出している。その目的は、障害者自立支援法が次年度から施行された場合、現在ここで施設サービスを利用している盲重複障害者の方々の生活にどのような影響があり、又、施設経営上にとどのような問題が予想されるか等々について検討するためである。これまで、数回委員会を開催してきたが、今のところすべてが不透明であり、明確な

方向性を打ち出すには情報が十分でなく、保護者の方々も施設側も困惑しており、正直言ってみれば生きているような状態だ。

私はこれまで五〇年近く、社会福祉の世界で働かせて頂いてきたが、いつの時代でもその時代特有の困難や艱難に見舞われてきた。少し気障なことを言うようだが、困難な中にもその困難と闘い、仕事の達成感の喜びに支えられて、むしろ困難を感じるをもって受け入れてきた。しかし、今回の制度改革によって越えなければならぬ「山」はこれまでと何となく違うような気がして、不思議な思いでもある。

(2)

しかし、昔も今も福祉の道には、どういふ訳か困難が伴うも

のようだ。但し最近のは一つ違うことがある。それと言うのは、かつては「福祉施設」に対する期待とそれなりの社会的評価や激励のようなものがあり、施設関係者は貧しい環境の中にも、施設に対する期待と激励そしてそれなりの評価に何とか応えようとする意気込みに燃える雰囲気があった。当然のこととして、二〇年前三〇年前には「施設解体論」とか「脱施設論」などと言った所謂「しせつ否定論」的な訳の分からない論調などなかったのである。全くなかったとは言わないが、私の記憶によれば、極左的グループによる「施設必要悪論」的な絶叫型の論調があったように思う。

「施設があるから障害者がそこに集められ、支配管理体制ができ、障害者の隔離がはじまる。これを打破するには施設制度を解体する以外にない」となるのであるうか。かつて私も東京光の家もこのような施設解体論

会報 五言

一、ああ、又、小学生の女の子が殺害された。どうしてこんな惨いことが続くのか。人間の罪の問題であるが、主因の解明が急がれる。

一、人皆自己利益に汲汲としている。幸せは他から挽ぎとることでは得られない。他に与えることで自分の幸せははじまる。

一、マンション等の建物の強度設計偽装事件、これ又、人命軽視と自己利益に汲汲とする結果のあらわれ。

一、聖書では、「平和をつくり出す人は幸いだ」という。ピーススピーカーは幸いだとは言わない。まさに平和に生きる人こそ幸いである。

一、「小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして小事に不忠実な人は大事にも不忠実である」(聖書)。

的攻勢に見舞われたことがあった。それはこうである。「東京光の家は視覚障害者に集団生活を強い、これを支配管理し、自由を奪っている。まさに暗黒の生活だ」と。しかし、これはあまりにも荒唐無稽な受けとめ方であり、施設で働いている人や利用者やそのご家族の方々にしても失礼千万な表現である。

(3)

決してわが田に水を引くのではないが、福祉施設は階級社会を象徴する場所でもなければ、障害を有する方々にとつて解体をせまらなければならない程の悪徳のしみが付着している所でもない。大方の福祉施設は善意と他者を思いやる優しさが中をきかしている地域社会そのものだ、私は受け止めている。

勿論、福祉施設に欠点はある。力不足の面もある。でもこの種の欠点や力不足をもって解体しなければならぬとしたら、おそらくこの地上に存在す

る如何なる組織体も団体も企業体も解体を叫ばなければならぬいのあるまいか。いや、国家そのものも解体を避けることはできないのではあるまいか。だからと言って、私は何も「欠点は仕方がないとか、力不足をやむを得ない」などと正当化するつもりは全くない。可能な限り、欠点は矯正し、社会の信頼を不動のものにしなければならぬと思っている。

むすび

地域福祉であれ、あるいは福祉施設サービスの利用であれ、要は障害者の方々にとつて真の意味で自立につながれば良いのである。しかし現実には、この両者は敵対関係にあるのではないのであつて、両者が夫々活用し合うことで、成果が出るものがある。施設解体は、施設の歴史的役割を否定するものであり、あまりにも現実を無視した非建設的独断であると言わざるを得ない。(未完)

新しい年の夜明けに

法人理事 小坂 恵児

新しい年を迎えました。

曙の光が輝き、芳しい香りが天地に満ちています。

『新しい歌を主に向かつて歌え』と詩人は歌います。

『全地よ、主に向かつて喜び

の叫びをあげよ』と歌い始め、

豊みかけるように『琴に合わせ、

楽の音に合わせ、ラッパを吹き、

角笛を響かせて、王なる主の御

前に喜びの叫びをあげよ』と呼

びかけます。(詩篇九八編)

眼を覆いたくなるような境界の混迷に加えて、国際情勢もまた不安に囲まれ、絶望的状况です。ただ、だからこそ根元に立ち

ち返り得る時でもあります。

事実が事実として認識しながら、確かに働き給う神の恵みを

仰ぎ見る時、感謝が溢れます。

くじけることなく、讚美の声

を高らかに歌う『東京光の家』

の存在は、闇夜の光です。

立ち戻る故郷、帰るべき港があつて、旅も船路も穏やかです。

人生行路の豊かさは、大いなる

力に支えられ、愛に満たされて

こそ育ちましよう。

祈りによって、信仰を中心と

して誕生した『東京光の家』は、

これを継承し、それを実践する

福祉施設であると同時に、園生



も、職員も、保護者も、共に立ち帰る憩いの場でありえれば幸いです。

『轟け、海とそこに満ちるもの、世界とそこに住むものよ。』

潮よ、手を打ち鳴らし、山々よ、共に喜び歌え、主を迎えて。

主は来られる、地を裁くために。

主は世界を正しく裁き、諸国の民を公平に裁かれる』

三千年前の歌が、今猶生き、真理を伝えていきます。抽象的表現の奥に、具体的な実践の結果が焔めいています。

障害者の自立を促す法律が国会を通りました。立法院の理想と抱負はそれなりに評価するにしても、現実には根ざさなければ心を失います。現実在即すると言いつつ、思考が硬直し、庶民の実践活動の生命を破壊する行政指導が往々にしてあります。木を見て森を見ず、森を見て樹を見ない。全体で部分を見、一律

に統制し、独善的な行政ほど災いの多いことはありませんが、最近はどうでしょうか？

市民の勝手気ままを救うのは、誤った民主主義ですが、市民のニーズに正しく応えなければ無意味です。

国家財政の窮乏のしわ寄せが、福祉に、教育に、医療にと、強い声を出せない弱者に集中しているように思われてなりません。

強者の驕りは『何時かは滅びる』と、詩人は予言していません。過去においてこれに類することは幾らもありました。

教育も、医療も、福祉も、家族や家庭の愛情が肝要で、在宅介護が見直されていることは慶賀に値しますが、個人の力には限度があります。二者択一ではなく、相互補助がなければ一面性をまぬがれません。社会共同体としての施設充実が急務です。国家権力が、精神主義に墮すれば、一人を生かせず、国家も滅ぼすと憂っています。

各施設のトピックス

身体障害者更生施設

光の家新生園

音楽の力



新生園は様々な訓練を提供していますが、「音楽」を取り入れた訓練がいくつかあります。正秋バンドの活動はご存知の方も多いと思いますが、その他にも音楽を用いることで良い成果を発揮している訓練があるので

す。例えば自閉的傾向の強い人たちが集まって行っている「ミ



ミュージックタイムで皆でオープニングテーマ曲を歌う

「ユー・ジックタイム」です。この訓練ではまず初めにみんなを決めたオープニングテーマ曲を歌い、その日の活動（カラオケ、わらべ歌等）をみんなで話し合っ行って、最後もエンディング曲をみんなが歌って終了しています。「音楽」というみんなの大好きなものを使って訓練を行って行く中で、少しずつではありますが、こだわりがとてもしっかりと、自分の世界に入りがちの人たちに仲間意識が芽生え、他者への意識が見られるようになっていっています。

体育訓練においても「音楽」がみんなの訓練に対する意欲を掻き立てる要因になっています。エアロビクスは人気の訓練ですが、約四〇分間、全身持久力・筋力、運動機能の向上など

を目標に行っています。しかし、ただ身体を動かそうと思ってもなかなか長続きしません。そこで、ジョギング、ジャンプ、腹

背筋運動、腕の上げ下げ運動など、一種目に対して一曲というように編集（その年に流行っている曲や多くの人が知っている曲）した音楽を用いて行っています。そうすることで、運動が苦手だった人も、好きな音楽に合わせて身体を動かすうちに、体力の向上、手足の協応動作が取れるようになる、運動に対して意欲的になるなどの効果が見られています。また、レクリエーションでは五四名全員で、音楽に合わせてリズム体操を行っていただきましたが、想像以上に好評でした。

このように「音楽」の持っている力を有効に用いて、これからも創意工夫しながら良い訓練を提供していきたいと考えております。

（新生園訓練課主任 小倉実知彰）

身体障害者授産施設 光の家栄光園

健康第一 運動大好き



今、栄光園では健康への取り組みが密かなブームとなっています。働き盛りの園生の平均年齢は四七歳を超え、元気に働く姿の裏には、運動不足により肥満傾向の方が大半を占めています。体を動かすことの大切さを頭では理解していても、いざ一人で動かすのは難しいことです。そこで、健康で丈夫な体を目指し、様々な取り組みを始めた。



顔色もほんのりピンクに。
元気に階段昇降

まず、月一回のウォーキングで力強く歩くことを基本としました。園生の体力や年齢に合わせたコースに分かれ、それぞれに合ったペースでしっかりと歩きます。春は桜に触れ、夏は蝉の大合唱を聴き、秋は落ち葉を踏みしめる。運動をしながら四季を感じる楽しい時間です。

ウォーキングを続けるうちに、運動や健康に対する興味が園生に広がりはじめました。「もっと運動がしたい」という声が多く、安全で簡単にできる運動は…と職員で考えた末、わが施設の三階まである階段を利用した階段昇降がこの秋からスタートしました。作業の後の時間を利用して、希望者が手すりをつたって毎日好きな音楽に合わせ階段を昇ったり降りたり。約二〇

分後には、みんな顔色がピンク色になり、汗をかいています。肥満防止ももちろんですが、体を動かすことを楽しんでいます。密かな運動ブームは、個別にも行われています。テレビで脂肪燃焼運動が話題になれば、次の日には「どんな運動？どうやってやるの？」と聞かれます。従って職員も健康や運動のテレビはかかさずチェックし、園生に教える前に試したりしている訳です。テレビの説明では、体の細かい動かし方が分かりづらい為、実際に手をとって一緒に運動を行っています。また、寝る前に布団の上で腹筋をしたり、毎日縄跳びをしたり、ガードレールをつたってぐるぐると歩いてみる人もいます。それぞれが自分にあった運動を見つけているようです。

楽しく体を動かして、健康に過ごす栄光園のブームを、これからも大切にしていきたいと思っています。

（栄光園授産課 室屋 安希）

音楽—それは神様からの贈り物

神愛園には、現在、三七歳から九四歳までの園生八〇名が生活しています。ほとんどの方が視覚障害に加え、二重、三重の障害を負っています。最近

きかなくなってきました。またちよつとしたことで骨折したり、病気になるって入院したりと辛い現実に向き合わざるを得ない状況が増えています。

では高齢化・重度化により職員の願いと反対に機能低下も著しく、今までできていたことができなくなり、心身共に自由が

このような厳しい現実を生きる園生たちは、ある時には言いようもない葛藤に苦しまなくてはなりません。が、生きることが最優先される園生の生活に音楽は潤いを与えます。なぜなら音楽は苦しむ心に安らぎと喜びを与えるからです。

は皆の大好きな曲ですが、何気なくユニークなリズムを打ちながら心も体も弾んでいる姿に驚かされます。又、歌の大好きな人が多く、普段は黙っている人でも活き活きと大きな声で歌っている姿には心打たれます。年一回開かれる「みんなの音楽会」や全体朝礼での発表は皆の励みとなっています。

神愛園のサークルの一つに音楽サークルがあります。音楽の大好きな人達が集まり、まずCDを聴いて皆で演奏したい曲や好きな楽器を選びます。そして曲に合わせて自由に演奏する中で本人達の身体の中にあるリズムを引き出し、曲を作り上げていきます。「真実一路のマーチ」

また民謡サークルは年一回行われる「夕照会」主催の民謡大会や全体朝礼で発表し、聴く人々に感動を与えています。日本各地の民謡が持つリズムや楽器の軽快さが力強い歌となって園生達の身体中から溢れてくるからです。

「音楽は神が我々に与えられた最大の贈り物の一つである」

「(M. ルター) こんな素晴らしい音楽を私達に与え、そのことに関わらせて下さっている神様に心から感謝します。」



夕照先生より熱のこもった指導を受ける民謡サークルのみなさん

「神愛園指導係 西脇 曉美」

法人施設役員

理事長・評議員

田中亮治

常務理事・評議員

田中ノゾミ

理事・評議員

相澤忠一

菅野秀郎

小坂恵児

篠崎友照

松山閑照

杉山友照

本閑二男

監事

川又義洋

藤田義洋

評議員

安藤左門子

石川左門子

岩島清子

遠藤文子

加藤保子

佐藤寛治

藤川勝宣

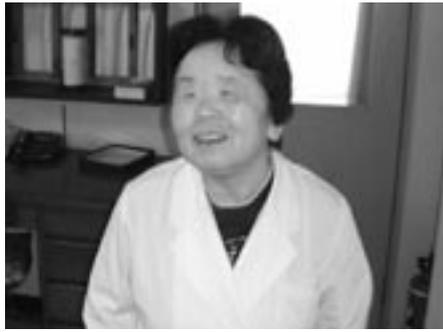
山藤三郎

(五十首順)

完成を待ち望んで



「もう、マッサージホームも建て替えなければ」と言う声を聞いたのは、いつ頃だったでしょうか。ホームで働く私たちも、もし、それが実現したらどんなにか素晴らしいだろうと思っていました。が、まだ先の事だと思っていました。しかし、既に計画は進められていたようです。と言うのは、昨年の夏に施設長から



「マッサージホームを中心とした建物を建てるので、何か要望があれば」と言われ、何回か集まりを持ったのです。いよいよ実現に向かって動き出す事を知った私たちの喜びは大変なものでした。夢は大きく膨らみ、事ある毎にあれもこれもこれもと話題は尽きる事はありません。

工事は、新年そうそうにも始められると聞き、それは大きな力となり、励みとなって、皆、頑張らなければと心を合わせて日々の仕事に励んでいます。

私たちがいつも安全で安心と希望を持って過ごせるのは、多くの方々からの支援と励ましによるものと、心から感謝し喜んでいます。私たちも、出来る事を精一杯活かし、応えて行きたいと願っています。

(鍼師 山内 龍子)

心通う食事作り



光の家には現在、約二二〇名の利用者がおり、食事課では三六五日の三食を提供しています。その上、昼食は職員分約九〇食が加わります。食事課は栄養士・調理師合わせて一三名で、おいしい食事・楽しい食事・健康に奉仕する食事を基本的に家庭的な食事作りを行っています。又、季節にあつた食事、行事食、選択食等変化ある食事をできるだ



け満足のいく様に提供できる事を心がけています。そのために利用者のニーズに合った形態(キザミ・極キザミ・ペースト)や体調に合った味付け(塩分制限・糖分制限・油制限・生魚厳禁等)、又、ご飯においても(軟らか飯・粥等)対応できるようにしています。利用者の要望を聞く場としては毎月二回の食堂巡回があります。そこでは直に利用者の声を聞く事ができ次回に反映する事ができます。更に新しい試みとして始めた事は、毎日昼食を作った調理員が利用者に直に食べた感想を聞きに行くことです。できるだけたくさん利用者にとり、コミュニケーションをとる事で本当に満足のいく食事を提供できると思っています。

(調理師 大島 由美子)

福祉政策の後退に歯止めを

東京光の家保護者会顧問 山田 善二郎

いま「改革」なるスローガン
の下で進めている小泉内閣の福
祉政策は、「改悪」というほか
ないように思います。

とくに私どもが深刻に危惧し
ている問題は、過日の特別国会
で、反対世論を無視して強行成
立させた「障害者自立支援法」
が、障害者と施設の双方に強い

るであろう負担についてです。

多くの障害者が、自立阻害法
だと、廃案を求めて国会請願を
しました。従来の「応能負担」
が「応益負担」に変わり、障害
程度が重い人ほど費用の負担が
重くなるなど、不合理や不透明
の内容が多い法律だからです。

ある知的障害者授産施設が、
サービスの基準となる「障害程
度区分」の一次判定を利用者に
試行したところ、半数以上が実
態より低く区分される結果が出
たとの報道がありました。

小泉首相は、「改革」を強調
した当初、「多少の痛みを伴う」
という趣旨のことを述べまし
た。しかし小泉内閣のこの四年
間、毎年三万人以上もの自殺が
連続しています。国民は、「痛み」
を超えて耐え難い「苦難」に追

い込まれているのです。
三〇年余の間「光の家」で
お世話になって、私の甥・
和彦は、いま生活保護の適用を
受けています。

全国知事会の強い反対の結
果、除外されましたが、厚労省
は生活保護費の国庫負担率の大
幅引き下げを図っていました。
もしこの削減案が実施されたら
したら、神愛園で生活している
園生は、いかに及ばず、神愛園の
運営それ自体にも重大な支障を
及ぼすことになったでしょう。

憲法がうたう、人間らしい生
活を保障するため、責任を果た
そうとする政府の姿勢は、年と
ともに薄くなっているようです。
一連の社会保障制度後退の背
景には、施設無用論など福祉軽
視論があると思います。ならば、

福祉施設がどれほど重要なもの
かを、身を持って体験している
障害者と家族が、この誤った理
論と行政を正すために行動を起
すべきではないかと思えます。

寄付者名簿

平成一七年二月一日
二月二〇日

久木田薫チャリティコンサート
実行委員会様（日野市社会福祉協
会を通して）
チャリティー 一〇万円

勝村和彦様 指定寄付 二万円

東京電力㈱八王子支社様
点字図書 一冊

テーブ図書 一六本

土屋正和様 ラ・フランス 一五kg

原田義秋様 電波式掛時計 一台

松田功様 米 六〇kg

千田浩三様 梨 一〇kg

金子勝江様 りんご 一五尾

鳥本みゆき様 長葱 二五kg

山崎忠彦様 みかん 二箱

石川雅也様 年賀ハガキ二〇〇枚

鈴木富夫様 みかん 二箱

㈱ハウジング恒産様
時計 一台、折り畳み傘 一本

村上経子様 りんご 二箱

㈱ホリプロ様（東京善意銀行を通し
て）ミュージカルチケット 五枚

北村好明様 さつまいも 八、五kg カリフラワー 二kg

白菜 四kg 大根 八kg さつまいも 二、五kg プロッコリー 一kg

※紙面の写真は、すべてご本人
の許可を得て掲載させて頂き
ました。



無理せず、自然体で

ボランティア 向井富士枝

「光の家でボランティアを始めたきっかけは何ですか？」

息子が新生園に入所したのをきっかけに、何か少しでもお役に立てればと思いい、縫い物や裾上げを中心にボランティアをしています。

「ボランティアを通して感じたことを教えてください。」

保護者でもあるという立場故、複雑な思いがあり、初めは園生さんに対して名前も言わず、極力見ない、聞かないとい



園生のズボンの裾上げをして下さっている向井さん

うようにしていましたが、園生さんたちは優しく、明るく声を掛けてくれます。また、施設がとてもきれいであるということが印象的です。これらはひとえに園生に対する職員の気持ちが一番になっていることの表れであると思います。

「ボランティアを続けるコツは何ですか？」

ボランティアを始めてから十数年になりますが、こうじゃなきゃいけないなどと考えずに無理せず、自然体で取り組んできたことが長く続けたコツだと思っています。また、光の家に来るといふことで私自身の生活にメリハリが付き、今でも健康に過ごせていると思っています。いつまで続けられるかわかりませんが、体力の続く限りお手伝いさせていただこうと思っています。

日野市立平山台小学校との総合学習

去る一月一七日、小学校四年生二九名が三名の教師と共に光の家を訪れた。この交流は今年で五回目だが統廃合のためこれが最後の交流となる。一〇時から一二時頃迄、介添歩行の方法を学んだり、アイマスクをかけてバレーボールの試合等にぎやかに行われた。最後にお互いに歌を披露。「今度町であったら目の見えない人に声をかけま



東京光の家、地域福祉への新事業

「ガイドヘルパー養成講習の実施」

「視覚障害者ガイドヘルパー」をご存知ですか？これは目の不自由な人の外出をサポートする人たちのことです。視覚障害者にとつて自由に外出することは自立生活や社会参加を促進する上でとても大切なことです。その為、各市町村等でガイドヘルパーサービスを提供していますがまだヘルパーの数が不足しています。と約束し、統廃合になってしまいう小学校を惜しんで別れた。

るのが現状です。当法人は創立以来、視覚障害者の支援一筋に歩んできました。そのノウハウを地域福祉サービスの推進・振興に役立てたいと考え、来年度からガイドヘルパー養成事業を実施しようと東京都に申請中です。「視覚障害者移動介護従業者養成研修」の実施を、どうぞ宜しくお願い致します。

利用者の声

二〇〇六年の抱負

二〇〇六年、私の抱負

光の家新生園 塩原今日子

新生園に入所して半年が経

ちだんだん生活に慣れてきました。私は今までお小遣いを持つたことがありませんでした。ここに来て、週千円から始めました。調子に乗って千円のテレホンカードに一度に使ったこともありました。ついついお菓子をたくさん買ってしまふこともありました。今は上手に使えるようになって、週二千円になりました。生活訓練ではカバー交換を行っています。大きいので角合わせが難しく、引つ張りすぎ



て外れそうになることもありま
す。だんだんコツが掴めてきた
ので、この調子でやっていき
たいです。

新生園に入所して、身の回り
のことが出来るようになってき
ました。とても嬉しいので、今
年も少しでも、出来ることを着
実に増やしていきたいです。

優勝目指して頑張ります

ーサウンドテーブルテニスー

光の家栄光園 吉沢雄司

私は今年で四回目の成年を迎
えます。お蔭様で健康に毎日過
ごしています。栄光園の作業で
は三係で封筒やノートなどを作
る仕事をしています。仕事は順
調で今年も引き続き頑張ってい
きたいと思います。

私が「今年の抱負」としてあ
げるならサウンドテーブルテニ
スのことです。今までも大会に
は出場してきましたが、栄光園



では昨年の一月から大会後も
ミーティングルームに卓球台を
出しておく事になり、いつでも
練習できるようにになりました。
以前、長嶋茂雄元巨人軍監督が
「夜間練習」の事を話していて、
そういう事をすれば強くなるん
だと教えてもらいました。これ
からは私も夜間練習や休みの日
も練習を重ねて、大会当日は少
しでもいい試合が出来るように
挑戦したいと思います。

入所できて新しい仕事発見

光の家神愛園 小倉只一

この神愛園に入所し、五年経
ちました。元気な若い時は職人
としてトタンや銅板を扱い、屋
根を葺き、門扉を造りバリバリ
働いていました。仕事は何をや



っても他の職人さんには絶対
負けませんでした。板金業とし
て人も使っていたのですが、四
回程脳梗塞で倒れ、その都度病
院を転々となりました。視覚障害
が残り光の家に入所することに
なりました。神愛園では皆さん
目が不自由なのに作業がありま
す。うれしかったですね。この
年(七二歳)になっても仕事は有
難いものです。木の固定定規を
作りそれに合わせ紐を切ります。
トルコ結び織りマット」として
三千円程で売れてゆきます。カ
ラフルでセンスがよいとすぐ売
れてしまいます。
今年是我的の干支ですから、も
う一頑張りしよう」と思ってい
ます。

歌と笑顔と感動と!

正秋バンドチャリティーコンサート 愛のサウンドフェスティバル

一月五日(土)、昨年と同様にアマミューたちかわ大ホールにて愛のサウンドフェスティバルが行われました。小春日和の暖かい陽気の中での開催でした。

正秋バンドメンバーは午前



十一時半に楽屋入りし、入念な音合わせや司会の高田敏江さん、ゲストのボニージャックスを交えたりハーサルに臨みました。私は今回初めて舞台裏を手伝わせていただきましたが、忙しい中でもしっかりと

段取りで準備が進んでいく事、そしてメンバーの落ち着いた様子が印象的でした。開演直前、出演者側の準備が出来る頃にはロビーは既に長蛇の列になっていました。

最初の曲は高橋正秋さんによる「里の秋く小さい秋みつけたく旅愁」。季節感あるしっとりした雰囲気での幕開けです。続く演奏も高田さんのテンポの良い司会に舞台・客席ともどんど



プロデューサーの飯田さんの指導でリハーサルがはじまる

んテンションが上がりました。

今回の見所はやはりボニージャックスとの共演です。田中理事長作詞・ボニージャックス西脇氏作曲の「どんな花でも生きている」は光の家・正秋バンドらしい真摯なメッセージがありながら優しい雰囲気の中で、演奏の息もびつたりでした。

正秋バンドの演奏には舞台と客席が一体となる力があると感じます。今回も会場全体が大いに盛り上がった演奏会でした。

(新生園訓練課 高橋 芳枝)



園生を代表して小泉さんが高田さんに花束をわたす



沢山の観客が舞台のはじまる前に長い列をつくる

二〇〇五年

東京光の家クリスマス



光の家全体で待ち望んだクリスマスが去る二月二日、外部から五〇名の方々をお迎えし、総勢三六二名で開催されました。第一部は、小坂恵児理事による記念講演「乳と蜜の流れる地」、神に祝福され、神の信仰を貫いてきた光の家について



第一部礼拝 記念講演をされる小坂恵児理事

のお話でした。第二部は聖歌隊による讚美歌「神に栄光あれ」「主の祈り」等三曲で、苦勞しながらも練習の甲斐があり、見事に讚美できました。又、神愛園有志による劇「神様、命を有難う」で何十年も視覚障害者として生き、尚、神に感謝し、人らしく生きる姿は優しくも、毅然として感動的でした。

第三部は八会場に分かれ、食事課手作りの料理で会食とお祝い。新作は「マカロン風魚介のテリーヌ」来賓の方々から「期待通り！」と喜ばれました。五時間に及ぶクリスマスは集った皆の心にキリストの暖かい灯をともし、静かに夜の帳とぼりがおりました。

岡本 一美



第二部祝会 神愛園による演劇「神様、命をありがとう」で自身の生い立ちを語る



50名のお客様をお迎えし、全員で高らかに讚美歌94番を歌う

あとがき

〇一月二六日。東大和市のハミングホールで身体障害者の家の資金集めに、正秋バンドが演奏会を依頼された。そこで、六〇名の仲間と一緒にバス一台をチャーターして応援に駆けつけた。

〇会報一三五号にて「再び施設福祉と地域福祉」について次のようなお便りをいただく。「今、脱施設の根拠になつていゝ地域福祉は、福祉先進国と言われる北欧などから、請売り、これがあたかも先駆的なものとして我が国に紹介、その先進国が今、再び施設を作ろうとしている。心ある社会事業家の先達が、ご苦勞され作つてこられた日本型福祉施設に誇りを感じます」と。

〇会報新年号（一三六号）をお届けいたします。（N・T）

発行 千九一〇〇六五
東京都日野市旭が丘一七七一
社会福祉法人 東京光の家
電話 〇四二（五八一）二三四〇
FAX 〇四二（五八一）九五六八
編集責任者 田中ノゾミ